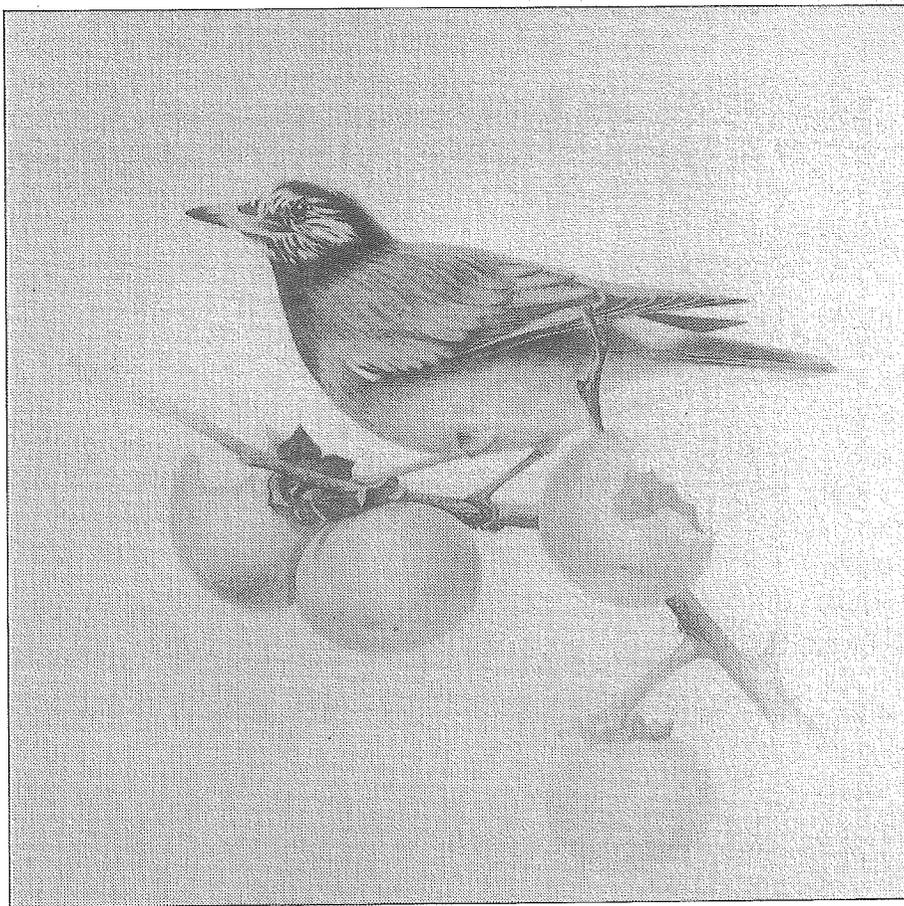


1984・12

第 7 号

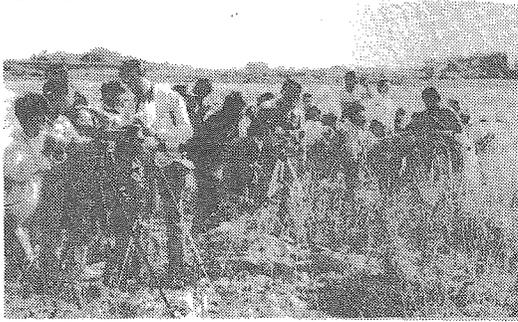
しろこぼと

日本野鳥の会埼玉県支部



盛況でした大麻生野鳥教室

11月3日(祭)、熊谷市大麻生野鳥の森とその付近で、野鳥教室を開催。熊谷市青少年相談員協議会(塚越幹夫会長)が開く歩け歩け運動への協力要請に応じて行われたもの。好天にめぐまれた午前10時ごろ、熊谷市内の小・中学生を中心とした参加者、なんと420名あまりの大人数が到着。「身近な野鳥」のパンフレットなどが配布された後、森の中に展



河原で楽しくバードウォッチング

示した10枚の野鳥写真パネルを見たり、河原に設置した望遠鏡でコサギやカモたちを観察して楽しんだ。支部からは鈴木忠雄副支部長をはじめ、13名のボランティアが参加して、パネルの解説やバードウォッチングの指導な



野鳥の森でパネル展

どに活躍。はじめて野鳥を間近に見た子供たちは、「わー、きれい、かわいい」を連発。

ここ大麻生は、本誌10月号でもおしらせした通り、本支部がサンクチュアリの設置を推進しているところ。サンクチュアリができれば、このような光景が、より充実した形で、いつも見られるようになり、自然教育にはたす役割は、はかり知れないものがある。一日も早い実現が期待される。

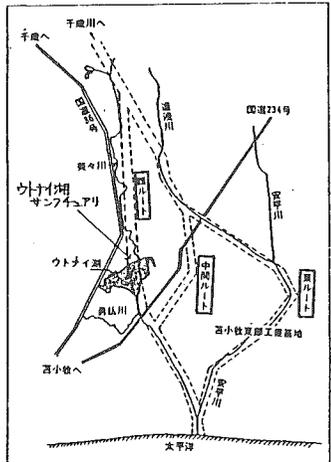
声を上げようーウトナイ湖サンクチュアリを守るためにー

11月1日(木) 午後3時から、東京都渋谷区の青学会館において、ウトナイ湖サンクチュアリ緊急アピール集会が開かれ、山下静一会長、国際鳥類保護会議インボorden博士ら、埼玉県支部の7名の会員を含めて多数が参加、2時間余りの討論の結果、「(1)西ルート案の阻止 (2)美々川源流部の迂回 (3)事前の十分な環境影響調査の実施」に会の総力をあげて取り組む事が決議された。

「千歳川放水路計画」ーこれがウトナイ湖サンクチュア리를危機に立たせているプロジェクトである。千歳川が洪水の原因、との理由で、幅450mもの放水路を造り、千歳川の水を太平洋へと導こうという計画で、そのルート案は右図の通り。ウトナイ湖の主要な水源である美々川の源流部をまず通過させる事になっている。しかも、早急に、来年度にアセスメント予算が計上されようとしているので、

ルートはまもなく決定されようとしている。

西ルートが変更になっても、美々川の源流は通過させるとの計画は根強い。今一度、会員の皆さんの強い声が必要とされている。西ルートを撤回させても



美々川の源流が破壊されては、ウトナイ湖サンクチュアリは守られたことにならない。

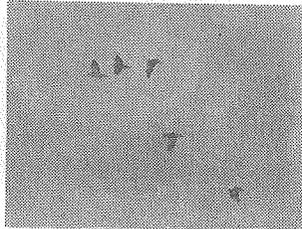
官製はがきに「ウトナイ湖サンクチュアリを守ってください」のひと言と、あなたの住所、氏名を書いて、次の二人あてに送ってく

ださい。

- 〒100 東京都千代田区霞ヶ関 3-1-1
北海道開発庁
北海道開発庁長官 河本嘉久蔵様
- 〒060 北海道札幌市中央区北三条西六丁目
北海道庁
北海道知事 横路孝弘様

アカツクシガモをうたないで

11月12日、栃木県支部から、渡良瀬遊水池に珍鳥アカツクシガモ5羽がおりていると連絡が入った。11月15日からの狩猟解禁をひかえ、支



空を飛ぶアカツクシガモ

部事務局としては、11月13日、県庁自然保護課に対し、ハンターによって誤射されることのないよう、指導を徹底してもらいたいと申し入れた。

ハト救出作戦

10月25日(木) 午前9時半ごろ、浦和市立大里小学校6年の生徒146名が、市内の玉蔵院境内に写生大会のために到着したところ、高さ15m くらいの木のこずえに、逆さづりになってもがいているドバト1羽を発見。つり糸が足にからまり、それが枝にまきついてしまったのだ。近くで枝はらいをしていた人もあまりの高さに手が出せず困惑。なんとか写生会は始めたが、泣きだす子もいて、くらいふんいき。引率していた上迫田健二先生が11時ごろになって野鳥の会の事を思いつき、意を決して支部事務局に電話をかけてきた。支部事務局からはさっそく浦和消防署にはしご車の出動を要請。事務局ボランティアとはしご車が前後して現場にかけつけ、約20分かかって無事に救出。その時、見守っていた生徒たちや数十人の通りがかりの人から、思わず拍手がわきおこった。ハトは消防署員の1人が自宅に連れ帰って看護、元気になりました

いはなしてやることになった。「翌日は学校中その話でもちきりでした。教育上大変良いことでした。つりのマナーについても生徒たちに話しました」と上迫田先生。浦和消防署の皆さん、ありがとうございました。

バードウォッチング・ウィーク報告

北国から冬を越すためにやってくるカモやハクチョウなどの大型の鳥をじっくりと見るのできる冬。11月1日から7日までの1週間のバードウォッチングウィークを中心に、全国各地で展示会や探鳥会が開かれた。

11月4日の全国一斉探鳥会は好天にめぐまれ、全国50余ヶ所で数千名の参加者が野鳥のいる自然とのふれあいを楽しんだ。

本支部においても、サンクチュアリ候補地の熊谷市の大麻生において、11月3日の野鳥教室を成功させ、また翌日の4日、同地区において全国一斉探鳥会行事として28名の参加者が35種の野鳥を観察した。

高野伸二さん 逝去



昨年10月、伊良湖岬で

日本野鳥の会理事、東京支部長の高野伸二さんが、10月15日夜ガン性腹膜炎のため亡くなりました。大正15年生まれ、59歳。昭和28年東京教育大学理学部卒業。『日本の野鳥』(小学館)、『野鳥識別ハンドブック』(日本野鳥の会)やフィールドガイド『日本の野鳥』(日本野鳥の会)など探鳥会においておなじみの図鑑の著者として、また野鳥の写真集や写真図鑑の出版や『野鳥』誌の編集委員長としても活躍されてきました。

謹しんでご冥福をお祈り申し上げます。

今月号の表紙絵「ムクドリ」とイラスト入りタイトル：鷹尾正濟さん

パドゥー・ツング 野鳥へのアプローズ

ア オ バ ト

今井明巨(熊谷市)

秩父には、緑色の美しいハトがすむという。雨に濡れながら、ニコンを握りしめて、3時間待った。アオー、アオーと不気味な声で鳴いた。

山奥の深い広葉樹林にすみ、繁殖期以外には数羽の群れをつくることがある。

ハトよりやや大きめの体で背は美しい緑色、オスの肩は赤褐色をしており、緑の森にとけこんで、保護色となっている。

近年、市街地に普通に見られるキジバトが、人になれて、庭先や道路上でエサをあさっているのにくらべ、アオバトは警戒心が強く、人が近づくことをきらい、山の森の中に住む。

昔、山バトとよばれたキジバトが、いつのまにかその分布をひろげて都市にまで進出し、都会派のハトになってしまったようだが、ア



秩父県民の森にて

オバトは孤独を好む、神秘的な、本当の山バトではないだろうか。

シャッターの音に驚き翼を激しくはばたいて、深い森の中に消えていった。

鐘撞堂山タカ日記

寄居町の北方に位置する鐘撞堂山(かねつきどうさん・330m)は、同町に住んでいる石井生高さんの観察の結果、毎年秋、タカの渡りが見られる所として知られるようになり、昨年秋は、1週間で200羽のサンバが観察された。今年の渡りのようすを、石井さんのフィールドノートからぬきだしてみた。

鐘撞堂山以外でも、埼玉県中央部の丘陵地帯では、タカの渡りを見ることができる。来年の秋は、あなたも観察してみたいか。

種類別 観察月日	ト ビ	サン バ	ハイ タカ	ツ ミ	オオ タカ	ハチ クマ	合 計
9月21日	3	8	1	2			14
9月24日探鳥会で	4	28				2	34
同日、探鳥会の後で	1	3					4
9月25日	4	4	1	2	2		13
9月30日		4				1	5
10月1日		8					8
合計	12	55	2	4	2	3	78

男衾小学校で親子探鳥会

先に、愛鳥運動で環境庁保護局長賞にかがやいた寄居町立男衾(おぶすま)小学校で、10月28日(日)、親子探鳥会が開かれた。支部会員の馬場正夫先生ほか3名の先生たち、

4年生の生徒とその親たち40名が参加。本支部からは田村照治副支部長をはじめ、5名の会員が指導にあたった。午前9時、校内の野鳥の森を出発して、荒川岸まで歩き、キセキレイやイカルチドリなど20種類の野鳥を観察した。

野鳥情報

- アカゲラ ◇10月4日 午後4時頃、蓮田市国立東埼玉病院付近の雑木林で♂1羽。(中島康夫・郁夫)
- チョウゲンボウ ◇10月5日、浦和市秋ヶ瀬公園ビクニックの森で♂♀各1羽。(石井智)
- アリスイ ◇10月7日午後2時頃、熊谷市大麻生荒川対岸の林で1羽。(探鳥会居残り組数名)
- オオタカ ◇10月7日午後2時頃、熊谷市大麻生で1羽。(探鳥会居残り組数名)
- ヨシゴイ ◇10月8日午前9時15分 浦和市白幡沼で1羽。(海老原美夫)◇10月15日、桶川市江川流域で3羽。(田中智恵子ほか1名)
- ヒクイナ ◇10月14日午後2時半、阪東大橋近くの備前渠で1羽。(石井生高ほか15名)
- タゲリ ◇10月18日午後2時半、桶川市川田谷江川下流で2羽。(長野博行)◇10月21日、大宮市丸ヶ崎の水田で7羽。(中島康夫)◇10月28日午前10時20分、桶川市川田谷江川流域上空を80羽以上が旋回。(長野博行)
- オオハンシギ ◇10月18日午後3時半頃、浦和市秋ヶ瀬公園近くの鴨川排水機場で1羽。

- (小園 茂)
- キビタキ ◇10月21日、蓮田市黒浜沼周辺で♂1羽。(中島郁夫)
- アオジ ◇10月21日、蓮田市黒浜沼周辺で2羽。(中島郁夫)◇10月28日午前6時半、浦和市岸町電線上でさえざる。(海老原美夫)
- ホシハジロ ◇10月21日、大宮市深作沼調整池で♂1羽。(中島康夫)
- ジョウビタキ ◇10月21日、浦和市三室地区探鳥会で1羽。
- ユリカモメ ◇10月21日、浦和市三室地区探鳥会で。
- カシラダカ ◇10月21日、寄居町深田谷津で。(石井生高)◇10月27日午後2時半、蓮田市黒浜沼で。(中島康夫)
- タマシギ ◇10月22日、桶川市江川流域で2羽。(田中智恵子)
- ツグミ ◇10月28日、寄居町男衾荒川岸で1羽。(男衾小学校親子探鳥会)◇11月4日午後9時頃、浦和市別所の住宅地の上空を鳴きながら通過。(海老原美夫)
- ミヤマホオジロ ◇10月28日、花園町荒川岸で♂1羽。(田村照治ほか5名)
- アオアシシギ ◇11月2日、浦和市三室地区の芝川で6羽。(草間和子)
- ケリ ◇11月3日、桶川市川田谷小学校西側の水田で2羽。(長野博行)

珍鳥情報・県外編

- 11月13日現在
- クビワキンクロ♂1羽 ◇上野不忍池。日本で3回目の記録
- アカハジロ♀1羽 ◇上野不忍池。
- オオハンシギ2羽 ◇大井野鳥公園、汐入りの池。
- サンカノゴイ1羽 ◇大井野鳥公園内。
- アカツクシガモ5羽 ◇渡良瀬遊水池。

予報3-10-

エクリプス警報解除 渡って来たばかりはエクリプス(非生殖羽)で、識別がむずかしかったカモ達も、12月に入り、もう多くの個体どころもがえを終わります。

地鳴き注意報発令中 姿を見せずにツッ、ツッと鳴いているのはアオジ。少し細い声でチッ、チッと鳴くのはカシラダカ。ホオジロはチチッ、チチチッ。ウグイスはチャッ、チャッ。地鳴きに注意。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以
下＝50円です。

12月9日(日) 吉見町 吉見百穴付近

午前9時10分東武東上線東松山駅東口
(寄居8:31発→森林公園駅で乗換→東松
山9:06着/朝霞台8:19→志木8:21→川
越8:38→東松山9:04着/南越谷7:50→
南浦和8:04→北朝霞8:14→朝霞台駅乗
換/大宮7:40→川越8:05→東武東上線
へ乗換)または午前9時30分吉見百穴前
集合。午後2時頃解散。タゲリや10種類く
らいのカモ。カモをねらうオオタカも期待。
(担当・田村照治、石井生高、長野博行)

12月10日(月) 大井野鳥公園平日探鳥会

午前8時赤羽駅京浜東北線ホーム北端
(川口寄り)集合。赤羽始発の電車に乗っ
て品川駅まで行き、品川駅東口からバス、
午前9時半ごろ大井野鳥公園着。トラフズ
クの出現率10パーセントとか。会えるかな。
(担当・佐々木勉)

12月16日(日) 浦和市 三室地区(浦和
立郷土博物館共催) 参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:
19発→大宮8:02→京浜東北線乗換)ま
たは午前9時市立郷土博物館前集合。午後
1時頃解散。(担当・海老原美夫)

1月6日(日) 寄居町 鐘撞堂山

午前9時寄居駅北口集合(大宮7:31発
→熊谷8:10着→秩父鉄道乗換熊谷8:19
発→寄居8:48着/東武東上線志木7:38
発→川越7:50発→森林公園乗換→寄居
8:45着/八高線東飯能7:37発→寄居8:
39着)午後2時頃解散。ルリビタキ、ミン
サザイを探します。(担当・田村照治、石
井生高)

1月13日(日) 狭山湖 カウント探鳥会

午前9時西武鉄道西武球場前駅改札口集
合(南浦和8:04発→新秋津8:27着→徒歩
約7分乗換→西武線秋津駅8:39発→西所
沢8:46着→狭山線乗換→西所沢8:52発→
西武球場前8:58着/飯能8:24発→西所沢
8:44着→狭山線乗換)全国一斉ガン・カ
モ調査の一環として、本部から講師もむか
え、カウントを行いながらの探鳥会。カウ
ントのやりかたを知りたい人はもちろん、
カウントには全然興味のない人も、みんな
集合。タカ類、カンムリカイツブリも見ら
れます。(担当・海老原美夫)

1月20日(日) 浦和市 三室地区(浦和市
立郷土博物館共催)

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:19
発→大宮8:02着→京浜東北線乗換)また
は午前9時市立郷土博物館前集合。午後1
時頃解散。参加費無料。(担当・西城戸司)

1月27日(日) 熊谷市 大麻生

午前8時40分秩父鉄道大麻生駅集合(大
宮7:31始発→熊谷8:10着→秩父鉄道乗
換熊谷8:19発→大麻生8:29着/秩父鉄
道寄居8:22発→大麻生8:40着)12時頃
解散。(担当・鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)



探鳥会報告



10月14日(日) 本庄市 阪東大橋下流

人 42人 天気 晴 鳥 カイツブリ
 コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガ
 モ ヒドリガモ オナガガモ トビ オオタ
 カ ヨウゲンボウ イカルチドリ シロチ
 ドリ ハマシギ イソシギ タシギ ユリカ
 モメ キジバト ヒバリ ショウドウツバメ
 ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグ
 ロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ ホ
 オジロ カワラヒワ スズメ カケス ハシ
 ボソガラス ハシブトガラス 以上33種
 運の良い人は、カモをねらって来たオオタカ
 が流木の上で休んでいるのを見られた。



阪東大橋探鳥会
 平川直子ちゃん、明子ちゃん

10月21日(日) 浦和市 三室地区

人 42人 天気 曇のち晴 鳥 コサギ
 カルガモ コガモ ヨウゲンボウ コジ
 ュケイ コチドリ クサシギ タカブシギ
 イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト
 カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ
 セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビ
 タキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ
 スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシ
 ボソガラス ハシブトガラス 以上29種 列
 が長く、前後で見られた鳥が違い、元気のな
 かった後の人たちが、最後に目と鼻の先の電
 柱に止まってバッタを食べているヨウゲン
 ボウ♀を見られて大喜び。

10月29日(月) 大井野鳥公園

人 16人 天気 曇 鳥 カイツブリ
 カワウ ヨシゴイ ゴイサギ ダイサギ コ
 サギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ
 オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ
 ハシビロガモ キンクロハジロ スズガモ
 トビ バン オオバン ハマシギ コアオア
 シシギ アオアシシギ オオソリハシシギ
 タシギ セイタカシギ ユリカモメ セグロ
 カモメ ウミネコ キジバト ヒバリ ハク
 セキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
 ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラ
 ス ハシブトガラス 以上39種 オオソリハ
 シシギは15羽も見られ、帰りには有志で不忍
 池に寄り、カモをじっくり観察。

11月4日(日) 熊谷市 大麻生

人 28人 天気 晴 鳥 コサギ カル
 ガモ コガモ トビ コジュケイ キジ ア
 オアシシギ イソシギ タシギ ユリカモメ
 キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ
 ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
 モズ ジョウビタキ ノビタキ ツグミ
 ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ
 ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
 イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボ
 ソガラス ハシブトガラス 以上35種 ツグ
 ミとカシラダカは今季初記録。カワセミ♂
 のほか、♀が魚を石にたたきつけてからたべ
 るのをみられ、初めて見る人が感激。

11月11日(日) 桶川市江川流域

人 30人 天気 晴後曇 鳥 ダイサギ
 コサギ マガモ ハヤブサ キジ タゲリ
 タシギ キジバト ヒバリ キセキレイ
 ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
 ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウ
 グイス ホオジロ カシラダカ アオジ カ
 ワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス
 オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
 以上29種 なんと100羽 近いタゲリの群れ
 を見られ、皆さん大満足。ハヤブサのおまけ
 付き。



連絡帳

ガン・カモ一斉調査に参加してください

代表的な冬の水鳥であるカモは埼玉のどこでどんな種が何羽越冬しているのでしょうか。例年全国の3.6%に当る38,000羽前後が荒川下流域、久喜菖蒲公園、森林公園、狭山湖、群馬県境の神流湖などで越冬しています。内訳はカルガモ15,000羽、コガモ9,000羽、オナガガモ7,000羽、マガモ4,000羽、ヒドリガモ1,000羽、ハンビロガモ、キンクロハジロと続きます。

日本野鳥の会では1982年から各支部が協力し1月15日に一斉調査を行なっています。調査を続ける事により分布状況、種数、個体数、生息地の環境などのデータを集めサンクチュリアや狩猟規制などの保護活動に役立っています。また国際水禽調査局に報告され国際的な保護活動の一端をになっています。

来る1月15日の調査に参加いただける方を募集しています。本部の協力を得て、1月13日(日)に狭山湖で識別の勉強、カウントを兼ねた探鳥会を行ないます。カモの識別を覚えたい方は、ふるって御参加ください。

冬鳥分布調査はじまる

環境庁『第3回緑の国勢調査』の冬鳥分布調査を日本野鳥の会が受託しています。既に調査員に登録された方は、本年12月1日から翌1月31日までの、ご都合の良い日時に、選んだ区画(メッシュ)を調査してください。調査結果は集計され、日本で初めての冬鳥分布図が『野鳥』誌などに紹介される予定です。

ご寄付にお礼

次の方々からご寄付をいただきました。あ

題字「しらこぼと」：日本野鳥の会会長・山下 静一

『しらこぼと』

1984年12月号(第7号) 頒価100円(会費に含まれます)
発行人 今井昌彦 発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号
電話 0488(32)4062

印刷所 埼新印刷株式会社 郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

りがとうございました。(敬称略・50音順)
秋間利夫3,000円、大井野鳥公園探鳥会参加者150円、桶川探鳥会参加者700円、柏原和宏3,000円、坂井和子1,000円、阪東大橋探鳥会参加者800円、谷津干潟探鳥会参加者750円

会 員 数

11月20日現在で413名です。400人目の会員は児玉町の倉林裕さん。記念品として、1985年野鳥カレンダーを贈呈いたしました。

事務局日誌

- 10月17日 高野伸二さん告別式に参加(石井生高)
- 10月28日 大麻生野鳥教室の下見と打合せ(今井明巨、海老原美夫)
- 11月1日 ウトナイ湖サンクチュアリ緊急アピール集会に出席(7名)
- 11月2日 第7回役員会
- 11月5日 編集会議(17日も)
- 11月13日 アカツクンガモの保護に関して、県庁自然保護課へ申入れ



編集後記

今月号は特に「会員に親しみのある」支部報をめざして、ニュース中心でまとめてみました。来月号は会員の声特集。どんどんお寄せください。お待ちしております。

本職の合間をみて原稿を書いていると、ジリリンと電話、サンカノゴイなどの珍鳥情報が入ります。本職も原稿書きも放り出して行きたいなあー。(海老原美夫)

(無断転載を禁じます)